

バイオ（培養系）を利用した稀少植物の保存や群生地復活の取り組み			
<p>[要約] 地域の稀少植物を培養技術で増殖することにより、稀少植物の保存や地域活性化に役立つ。八日市市ではジエビネを無菌播種で約860株、今津町ではザゼンソウを茎頂培養で約200株増殖し、群生地復活や観光、教育に利用している。</p>			
農業試験場・先端技術開発部・生物工学担当		[実施期間] 平成11年度～15年度	
[部会] 農産	[分野] 革新的技術	[予算区分] 県単	[成果分類] 行政

[背景・ねらい]

滋賀県は水と緑に恵まれ従来から多様な野生生物が生息しているが、近年の様々な人間活動や環境の変化等から野生生物や在来植物の減少が危惧されている。2000年、県では「滋賀県で大切にすべき野生生物2000年版」いわゆるレッドデータブック滋賀県版を初めてまとめ、その保全の重要性を唱っている。

一方、各市町村では里山や在来植物などの地域資源を見直し、地域活性化や観光に利用する取り組みが見られる。ここでは、バイオ（培養系）の活用により、八日市市のジエビネの群生地復活の取り組みと今津町のザゼンソウによる地域活性化および教育の取り組みを支援する。

[成果の内容・特徴]

ジエビネは無菌播種で、ザゼンソウは茎頂培養で効率的に培養による増殖が出来る。方法の詳細は「植物バイオ実験マニュアル」(<http://www.pref.shiga.jp/g/nogyo/bio/>)に掲載している。

八日市市での1996年の調査により発見されたジエビネ2株について増殖依頼を受け、農試で無菌播種し苗860株を得た。増殖した苗は2003年6月に八日市市建部北町に整備された施設の里山「河辺生き物の森」に引き渡された。現在、変異も無く良好に生育しており、昨秋、苗の一部はボランティアにより里山内に植え付けられた。今春以降、順次里山内に移植される予定である。

今津町在来のザゼンソウの増殖依頼を受け、茎頂培養により増殖しザゼンソウの苗約200株を得た。増殖した苗は2003年6月今津中学生ボランティア活動グループが今津町内の観光施設や寺院計4カ所と今津中学校内ビオトープに、2003年3月（有）アグリ今津が神社前の水田に植えた。在来植物を用いることにより、子供の地域を知る教育活動になる。また、これらの取り組みは地域や観光の活性化に有効である。

[成果の活用面・留意点]

ジエビネの増殖には、生物多様性に配慮すると無菌播種が適する。

組織培養（茎頂培養等）によるクローン苗は、園芸面や観光面での利用に適するが、生物多様性に配慮した群生地復元には不向きである。

[具体的データ]



図1 稀少植物の培養（左；ジエビネ、右；ザゼンソウ）



図2 増殖した八日市市ジエビネの引き渡し



図3 今津中学生によるザゼンソウの植付け
（今津町；寺院にて）



図4 ザゼンソウの植え付け状況

[その他]

・研究課題名

大課題名：バイオテクノロジー、IT等を活用した革新的技術の開発

中課題名：バイオテクノロジーを利用した育種改良技術の開発

・研究担当者名

森真理（H13～15）、北村治滋（H14～15）、宮村弘明（H12）、大谷博実（H12～13）、

渡辺健三（H11）

・その他特記事項

平成10年度要請課題（旧；八日市県事務所農産課）

平成12年度要請課題（湖西地域農業改良普及センター）

